



農業委員会だより とちぎ

2023.3.31
第 19 号

発行：栃木市農業委員会
編集：農業委員会だより編集委員会
電話：0282-21-2393



写真：栃木県立栃木農業高等学校 提供

目次

- 会長・推進委員長あいさつ P2
- 農業委員・推進委員名簿 P3
- 農業委員会の活動紹介 P4.5
- 和牛能力共進会結果 P5
- 事務局からのお知らせ P6
- 頑張ってます！ Agrist P7.8
- 編集後記 P8

栃木農業高校の農業環境部食品科学班は、栃木市平井町が「ゆずの里」であることを多くの人に知ってもらうため、2年前から地域との連携や商品開発を通じてPR活動を行っています。

生徒自らの手で収穫したゆずを使い、学校で学んだ知識や技術を活かした商品開発にも取り組んでいます。ゆずを使った「マーマレード」を市内で販売し、いちご一会とちぎ国体では、ゆずの「アイシングクッキー」と「シフォンケーキ」を提供し、好評を博しました。

これらの取組みが評価され、昨年12月には県庁で「とちぎ地産地消夢大賞 奨励賞」を受賞しました。

これからも多くの方に情報を発信して、栃木市のゆずの魅力さをさらに広めてくれることを期待しています。

《長 明美 委員》

会長あいさつ



栃木市農業委員会
会長 若色 昭松

日頃、農業委員会活動に対して多大なるご理解ご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

本委員会は、農地法に基づく許認可業務(年間約240件)や担い手への農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進などを業務として行っております。

現在、農家には新型コロナウイルスによる経済の疲弊の上に、ロシアのウクライナ侵攻、円安等を原因とした燃料や肥料、飼料の高騰など、個人ではどうにもならない苦難が次々にやってきております。その中であって私たちは農業を未来にどうつないでいくかを考えなくてはなりません。

農家の大規模化・法人化を進めようという声もある一方で、小規模の家族経営体も同じく底上げを計らなければ乗り切れないのではという思いもあります。中山間地においては特に問題は深刻です。整備を終えた土地改良区では、比較的スムーズに進んでおりますが、その中においても一番の問題は耕作地の分散

です。もう一段上の話し合いも必要かと思えます。

また、水田活用交付金の厳格化、主食用米需要の減少による水田の減少、高齢化の中で高収益作物への転換補助金の交付内容等、農家を巡る情勢は刻々と変化しています。

このような中「農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律」が公布され、令和5年4月1日から施行されます。その中で「人・農地プラン」は法定化され、市町村は「地域計画」を策定する事が義務化されました。計画の中心となる「目標地図」は農業委員会で作成することになっていきます。目標地図とは人・農地プランの実質化の次のステップとして実質化を地図に表し、集積集約をさらに進めようとするものです。

市内ではニラやイチゴを作る新規就農者は増加傾向にあります。イネやムギ等の耕種農業への参入は少なく、担い手となる者への集積があまり進んでいないのが現状です。

本市における9,630ヘクタールの農地のうち集積率は5割を割っています。今後いろいろな政策が出てくるでしょうが、今私たちが動かないと地域の農業は守れない思いがします。そのために「地域計画」を地域で農業を考える好機ととらえ、農家以外の方も含めた地域の声を聞きたいと考えています。

最後になりますが、今まで述べてきたように農業委員会活動は地域の協力が不可欠です。皆様と力を合わせて活動していきたいと思っておりますのでご理解ご協力をお願いいたします。

農地利用最適化推進委員

委員長あいさつ



農地利用最適化推進委員
委員長 木村 隆夫

昨年7月の改選により農地利用最適化推進委員長に就任いたしました。3年間どうぞよろしくお願いたします。

農業委員会は農業委員と、農地利用最適化推進委員で構成されています。

農地利用最適化とは、担い手への集積・集約化、耕せなくなる遊休農地の防止や解消、そして新たに農業者を増やすことの3つの活動を通して「耕されている農地を耕せるうちに耕せる人につないでいく」ことです。栃木市は県内第4位の現在9,630ヘクタールの農地がある農業のまちです。

私自身この地で、米と麦をつくり始めて50年、農業委員としても20年近く勤めた経験を活かし、栃木市の農業の発展のために力になりたいと思っております。

農地利用最適化推進委員は、皆さんの身近な相談員でもあります。農業、農地に関してお困りのことがあれば、お近くの推進委員にお気軽ににご相談ください。

MEMBER LIST

農業委員

地域	氏名	電話番号
栃木	若色 昭松	27-3477
	正田 秀雄	24-6105
	長 明美	27-1898
	柴 賢一郎	31-2026
	川田 久子	31-0176
大平	小林真理子	43-3848
	平本 勲	43-4444
	荒川 則夫	43-6430

地域	氏名	電話番号
藤岡	高際 英明	62-3147
	大谷 朗	62-4471
	石塚 一彦	67-3624
都賀	泉田 裕美	27-7660
	大塚 幸八	27-6415
西方	川嶋 房代	92-8116
	狐塚 正直	92-7774
岩舟	五十畑節子	55-1583
	佐山 耕基	55-7883
	山崎 幸行	55-8575

MEMBER LIST

農地利用最適化推進委員



地域	区域	担当推進委員	電話番号
栃木	1 万町、倭町、旭町、室町、城内町1～2丁目、神田町、本町、沼和田町、河合町、日ノ出町、片柳町1～5丁目、湊町、富士見町、境町、平井町、菌部町1～4丁目、入舟町、祝町、箱森町、小平町、嘉右衛門町、錦町、泉町、大町、昭和町、柳橋町	木村 隆夫	24-1885
	2 今泉町1～2丁目、平柳町1～3丁目、大宮町	渡邊 栄三	24-2298
	3 仲仕上町、藤田町、久保田町、宮田町、高谷町、樋ノ口町	新村 忠央	23-4197
	4 柏倉町、小野口町、皆川城内町(三五、城下北、鳥砂、荒宿、城下南、城南、中央)、志鳥町	関口茂一郎	24-1805
	5 大皆川町、岩出町、泉川町、新井町、皆川城内町(松原、新町)	寺内 茂	23-1620
	6 吹上第1、吹上第2、細堀町、木野地町、川原田町	臼井 文雄	31-2027
	7 宮町、吹上第3、吹上新道、野中町、野中松原、千塚町、大森町、仲方町、梓町	峯岸 松司	31-0038
	8 尻内町、梅沢町、大久保町、鍋山町、星野町、出流町	白沢 栄幸	31-0383
	9 惣社町、柳原町、大塚町	渡邊 和男	27-0278
	10 寄居町、国府町、大光寺町、田村町	島田 明	27-5332
大平	1 横堀、牛久、土与、川連、北武井	柏淵 敏雄	24-3598
	2 蔵井、真弓、上高島、下高島	渡辺 正	43-0679
	3 新、西野田、榎本	尾花 久男	43-6511
	4 西水代、伯仲	大出 裕造	43-8331
	5 富田、下皆川	須藤 法男	43-3890
	6 西山田	須藤 時夫	43-4305
藤岡	1 部屋、緑川、新波、石川、帯刀	佐山 幸男	67-3001
	2 蛭沼、西前原、富吉、中根	綾部 憲一	67-3137
	3 藤岡、下宮、内野	田中 徹	62-9055
	4 赤麻	高際 優	62-3736
	5 大前	大武 孝一	62-4217
	6 甲	上岡 秀幸	62-9641
	7 都賀、大田和、太田	須藤 壽久	62-5235
都賀	1 合戦場、平川、升塚、下新田、新名地、宿、中新田	長 正弘	27-0499
	2 桜本、中荒井、鷺の宮、橋本、上新田、家中本郷、中妻中の内	鳩山 良之	27-8689
	3 原宿下、原宿上、木の東、木の西、木の北、桜内、白久保、大橋	大賀 良男	27-7313
	4 富張、深沢、南嶺、十文字、仲坪、宿坪、中郷、野上	氏家 幸一	92-7250
西方	1 本城、元、本郷	山ノ井亮司	92-2584
	2 金崎、金井	臼井 延男	92-8302
	3 真名子	石田 勝英	92-7796
岩舟	1 五十畑、和泉、静和、鷺巣	落合 晃雄	55-1450
	2 静戸、曲ヶ島	三柴 昇	55-6239
	3 静、下津原、豊岡	永島日出男	55-1494
	4 古江、新里、三谷、下岡、上岡	板橋 聖之	55-8750
	5 小野寺下、小野寺中、小野寺上	野尻 芳男	57-7411

活動報告

家族経営協定研修会を実施

11月22日、栃木市役所にて栃木県女性農業士・家族経営協定部会（以下部会）による寸劇「いちご農家、鈴木家の話」を教材に家族経営協定研修会が行われました。

家族経営協定とは農業に従事する家族内で十分に話し合っ結び協定することで、あいまになりがちな役割分担や休日、報酬などの労働条件を明確にし、意欲とやりがいを持って、家族みんなが働きやすい就業環境を取り決めるものです。

農水省の2021年度の調査では、家族経営協定締結数が過去最多を更新し、都道府県別を見ると栃木県は北海道、熊本に続いて3番目の新規締結数であり、経営体数が減っている中、協定を結ぶメリットの認知度が進んできたと言えそうです。

部会（島田邦江部会長）には現在16名所属しており、今回のシナリオは第3作目です。セリフ、小道具も全て部会員で作成しています。県内の農業委員会等で寸劇を披露しながら推進活動を行っています。

寸劇を見た委員は「内容が分かりやすく栃木弁が飛び交い楽しく理解することができました。まずは、家

族内での話し合いが必要だなあ。」と感想を述べました。

農業委員会では、前農業委員（任期令和元年7月20日～令和4年7月19日）に続き、2期連続で全員締結を目標にすると同時に締結することのメリットを周知し、家族経営協定の重要性を発信していきたいと考えます。

《泉田裕美 委員》



関東6県の女性農業委員、農地利用最適化推進委員集う

11月9日、令和4年度関東ブロック女性農業委員等研修会が、ホテル東日本宇都宮にて開催されました。

関東ブロックでは群馬、埼玉、茨城、千葉、神奈川、山梨6県と栃木県内各市町村より総勢約300名が出席しました。本研修においては「農地利用の最適化と推進、持続的な農業を柱に女性委員の活動を広げる」をテーマに宇都宮大学の西山未真教授の講演を聞かせていただきました。食と農の関係、都市と地方の関係、高齢化、担い手不足の農業。その中での女性農業者の役割など、とても参考になるお話を伺うことができました。

その後の意見交換会では各地区女性委員の方々の体験談、活動状況など活発な意見が交わされました。

出席者全員に栃木県内各地の農産物の提供もあり、栃木市からはイチゴとブドウのジャムのセットを提供し、関東各地に栃木市をPRすることができました。

今回の研修においては色々な方々の御意見を伺うことができ、とても有意義な時間となりました。

《川嶋房代 委員》





アグリ女子 運転準備OK

12月21日、JAしもつけ営農経済センターにおいて広域農機センター担当職員とメーカーの方々を講師とした「女性向け小型農機具使用講習会」を開催しました。参加者22名はトラクター、管理機、刈払機の3班に分かれ、基本的な操作方法を丁寧に教えていただきました。

参加者全員が全ての機械に触れ、運転することができ貴重な時間となりました。

見聞きするだけでなく、実際触って動かして体感することが重要だということを再認識しました。

安心、安全に使用するために、使用前と使用後の格納の点検整備が大切であることも学びました。



会場を研修室に移動して実施した交流会では、3班に分かれグループトークを行い、農機具使用講習会の感想、女性農業者としての日頃の思い等々活発な意見が交わされました。

交流会を通し、農業委員会を身近に感じてもらうこともでき、有意義な交流会となりました。

委員の募集に際しては独自の視点、感性をいかした活躍を期待できる女性にも積極的に応募していただくよう呼びかけました。

《川田久子 委員》



「とちぎ和牛」全国にPR

「和牛のオリンピック」と呼ばれる品評会「第12回全国和牛能力共進会」が10月6日から5日間鹿児島県霧島市と南九州市の2会場で開催されました。

5年に1度、日本全国から名だたる和牛の生産者が集うこの大会に栃木県の代表として栃木農業高等学校、有限会社小池商事（肉のふきあげ）が出場しました。

大会は9部門に分かれ、栃木農業高校の出場した高校・農業大学の部門では出品牛の評価と生徒・学生の取り組み発表の合計点で争われ、24校中22席(位)で優等賞を受賞しました。

小池商事の出場した、去勢肥育牛の肉部門は39都府県から58の生産者が出場した最大の激戦部門で、肉量・肉質・脂肪の質からおいしさと魅力を審査、審査の結果9席(位)優等賞を受賞しました。

強豪産地の生産者が集まった大会で、栃木市産「とちぎ和牛」の存在を全国に知ってもらう機会となりました。



令和5年10月からインボイス制度が始まります！

INVOICE

「インボイス」（適格請求書）とは、売り手が買い手に対して、正確な適用税率や消費税額等を伝えるものです。

売手であるインボイス発行事業者は、買手である取引相手（課税事業者）から求められたときは、インボイスを交付しなければなりません。



◇インボイスを発行するためには、インボイス発行事業者の登録申請が必要です。

登録は課税事業者が受けることができます。

◇消費税免税事業者（課税期間の課税売上1,000万円以下の事業者）の方も、ご自身の事業実態に合せて、インボイス発行事業者の登録を受けるかご検討ください。

◇登録を受けるかどうかは事業者の方の任意です。

●インボイス制度に関する一般的な相談

【専用ダイヤル】0120-205-553（無料）

【受付時間】9:00~17:00（土日祝日除く）

・詳細は、国税庁ホームページ「インボイス制度特設サイト」をご覧ください。

問合せ先

農業者年金に

加入しませんか

節税対策しながら年金積立

老後の備えは

国民年金

＋ 農業者年金

ポイント① 支払った保険料は全額社会保険料控除の対象

積立てる保険料は、将来年金として受け取れるだけでなく、支払った家族の分の保険料も含めて社会保険料控除の対象となり、大きな節税効果があります。

ポイント② 運用益は非課税

制度発足以来19年間の運用利回りは、年率で+2.97%

積立方式・確定拠出型の年金です。運用益は非課税で年金の原資として積み上がり、毎年度の年金試算の積立・運用状況は毎年6月末までにお知らせしています。これにより、自分の積み立てた額や運用益の状況がわかるようになっていきます。

ポイント③ 農業経営の状況に応じて保険料を増額し、節税額をアップ

農業経営にゆとりが出たときは、保険料の毎月の保険料額を増額したり、翌年1年分をあらかじめ一括して納付する「前納納付」で当年中に納付する保険料を増やして、節税額をアップすることもできます。

全国農業
新聞

全国農業新聞を

購読してみませんか？



発行所…全国農業会議所

毎週金曜日発行

購読料…月700円

【送料、税込み】

全国農業新聞は、地域農業者の代表機関である農業委員会ネットワークが発行する農業総合専門紙です。

一週間の農政の動きや、現場で役立つ栽培技術・流通の情報、魅力的な農家の取り組みなど幅広く伝え、経営とくらしに役立つ新聞として高い評価を受けています。

紙面のオールカラー化により、より「見やすい」「分かりやすい」新聞へと生まれ変わりました。ぜひ一度手に取っていただき、情報収集のツールとして全国農業新聞を購読してみませんか。

購読のお申し込みは、農業委員又は農業委員会事務局（☎21・23393）までご連絡ください。

アグリスト 頑張ってます! Agrist (農・業・人)

支えてくださった方々へ いちご作りで恩返し

栃木市箱森町の自宅から西方町の圃場に通い、今シーズンで2年目を迎えました。庸子さんは1年間、都賀町のいちご農家に研修生としていちご栽培を習得、その後、健介さんはお勤めを辞め、二人三脚でアグリストに。仕事と子育てに奮闘中のお2人にお話を伺いました。

箱森町

わが い けんすけ ようこ
和賀井 健介さん・庸子さん(妻)



経営内容と状況を教えてください。

3棟の単棟ハウス、18aで「とちおとめ」を栽培、出荷は、JAさんを通して市場販売です。

以前から、栃木のいちごといったら、とちおとめのイメージがあり、「とちおとめが上手に栽培できなければ、他の品種を上手く作れる訳がない!」と思い、とちおとめ栽培に専念しています。

いちご栽培を始めたきっかけはなんですが。

2人でこれからの人生設計を考えた時に、最初に思いついたのが農業でした。

妻の知人で経営コンサルタントの方のアドバイスで、いちご栽培を勧められ、下都賀農業振興事務所、市農業振興課、農業委員会に相談しました。研修の受け入れ先や圃場の確保と、たくさんの方のご支援があり、全てがトントン拍子に進みました。

就農してからの課題、魅力を教えてください。

昨シーズンは就農1年目ということもあり、細かいご指導を頂いてルールに乗っていたように思いますが、2年目の今シーズンは大きな壁にぶつかっています。先々の作業内容を計画し、その時期に応じて苗にとって適切な環境や、育成状態にすることが大切なのですが、そのタイミングがつかめず、昨シーズンの作業日誌を見て探りながら作業する時もあります。



定植前の苗の手入れの様子

魅力は、自分達で一日の作業スケジュールを決め有効に時間を使えることです。子育て面でもとても充実しています。そして先輩方を見習って「手をかけた分、頑張った分、いちごがたくさん実ってくれる。」と語れる日が来るよう経験を積み重ねることも課題であり、また農業の魅力だと思っています。

今後の目標、夢を教えてください。

健全で病気にならない苗づくりをすることや、定植してからの苗の状態、実ってからの苗の状態、ビニールハウス等の環境整備など、1シーズンでその時期に合った作業がスムーズにできるようにしたいと思っています。

品質の向上、収量を増やすための技術面はもちろんですが、栽培面積を増やし、とちあいか等の他品種も作ることを目標にしています。

そして、今日にたどり着くまで、ご支援、ご指導をして頂いた方々に栽培の成果を見てもらい、少しでも恩返しができるように、日々勉強、努力していくつもりです。

《取材：泉田裕美 委員》

アグリスト
頑張ってます! Agrist (農・業・人)

より働きやすく より美味しいトマトを作りたい

大平町新 ^{とものり} 永田 友紀さん・^{まき} 真喜さん(妻)・^{あゆむ} 歩ちゃん(子)
^{えいざぶろう} 栄三郎さん(父)・^{じゅんこ} 純子さん(母)



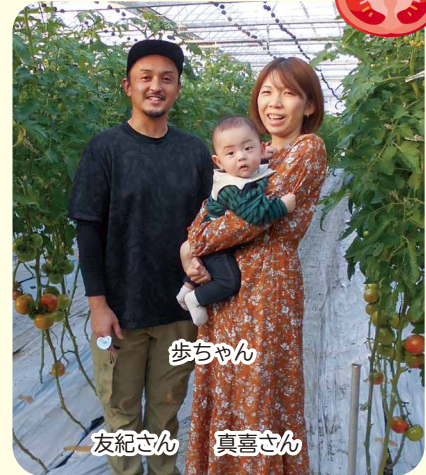
栃木市ブランドトマト「赤い恋人」は、完熟収穫にこだわった甘味と酸味のバランスが絶妙なトマトです。そんな美味しいトマトを専作で頑張っている、永田友紀さん御家族にお話を伺いました。

家族構成と経営状況を教えてください。

家族構成は、私、妻、子供（9ヶ月）の3人です。
経営は私、父、母、パート従業員11名で、トマトを94aを経営しています。

農業を始めたきっかけはなんですか。

元々サラリーマンをしていましたが、心のどこかにいずれトマト農家を継いでみたいという思いがあり、10年前に会社を退職して就農しました。



工夫している点、気を配っている点などを教えてください。

温度管理や水管理などをデータで見える化しながら、生育に合った環境作りに心がけています。

農業をやっているの魅力、課題は何ですか。

自分の作ったものがスーパーなどに並び、多くの消費者の方々に美味しいと喜んで食べてもらえることが魅力だと思います。

課題としては、作業効率の向上。パートさんの働きやすい環境作りを目指しています。

今後の目標と展望はなんですか。

収穫量の前年比プラス増と、品質の向上を目指します。トマト単価の変動と経費の高騰が続く中、品種変更など新しいことにも挑戦していきたいです。

《取材：小林真理子 委員》



編集後記

令和4年7月に、新しい農業委員と農地利用最適化推進委員が決まりました。農業委員会だより編集委員も新しいメンバーとなっはじめての発行となります。

新型コロナウイルスの影響もまだまだ続いていますが、感染対策をしながら、とちぎ秋祭り等いろいろなイベントが開催されてきています。

農業委員会だよりを充実させるため、皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。

《編集委員長 長 明美》

農業委員会だより編集委員会

- | | | |
|------|---|-------|
| 委員長 | 長 | 明美 |
| 副委員長 | 長 | 大谷 朗 |
| 委員 | 長 | 小林真理子 |
| 委員 | 員 | 泉田 裕美 |
| 委員 | 員 | 川嶋 房代 |
| 委員 | 員 | 川田 久子 |
| 委員 | 員 | 佐山 耕基 |